

第8回町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会 議事概要

日 時	2025年6月30日（月）14時00分～15時30分
場 所	町田市庁舎5階 5-4会議室
出席者	【委 員】 （敬称略） 山口 有次（桜美林大学ビジネスマネジメント学群教授） 長尾 洋子（和光大学表現学部総合文化学科教授） 藤枝 由美子（玉川大学芸術学部アート・デザイン学科教授） 宗田 隆由（一般財団法人町田市文化・国際交流財団） 佐藤 正志（町田商工会議所） 高梨 光之（一般社団法人町田市観光コンベンション協会） 大山 茂登（木曽中学校校長） 百田 明弘（相原小学校校長） 高橋 倫正（町田市郷土芸能協会） （以上9名） 欠席：高野 宗佳（一般社団法人町田市文化協会） 【事務局】 文化振興課 山田課長、山岸、福地、齋藤、 株式会社文化科学研究所（コンサル）山名、安田、菊谷（オンライン参加） 【傍聴人】 なし
議事内容	1 前回の振り返り （1）第7回懇談会の振り返り 2 計画素案の検討 （1）（仮称）町田市文化芸術のまちづくり計画の素案について
配布資料	資料00_レジュメ_町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会 資料01_資料1_第7回懇談会議事概要 0526 02_資料2-1_（仮称）町田市文化芸術のまちづくり計画（素案） 03_資料2-2_（仮称）文化芸術のまちづくり計画策定に係る全体像

開会

○事務局（山田課長）

本日は、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

本日、第8回懇談会では、前回までのご指摘を踏まえ、素案の加筆・修正等を行いましたので、皆さんからのご意見をいただきたく思います。それでは、ここからの進行は、山口委員長に委ねたいと思います。山口委員長、よろしくお願いいたします。

○山口委員長

それでは、「1 前回の振り返り」について、事務局からの説明をお願いします。

1 前回の振り返り

（1）第7回懇談会の振り返り

（資料01_資料1_第7回懇談会議事概要 0526）について事務局から説明）

○山口委員長

以上についてご意見・ご質問ありますでしょうか。

<ご意見>

なし

2 計画素案の検討

(1) (仮称) 町田市文化芸術のまちづくり計画の素案について

(02_資料 2-1_ (仮称) 町田市文化芸術のまちづくり計画 (素案)

03_資料 2-2_ (仮称) 文化芸術のまちづくり計画策定に係る全体像) 以上 2 つの資料を事務局から説明

○山口委員長

以上についてご意見・ご質問ありますでしょうか。

<質疑>

○長尾委員

30 ページのまちだ Smile-ring project の一覧表について、分かりやすくなったと思う一方で、これまでの議論を通し、内容を理解してきた方でないと分かりづらいのではないかと感じました。方針は、1 から 4 と分けられており、さらにその中の施策で整理されていますが、プロジェクトの A、B、C と、ラベリングされていないものがあり、これらをどのように見ればよいのでしょうか。

○事務局

まず、方針を横断する取り組みとして、多くの人を巻き込み、全市的に行うものがプロジェクトの A、B、C です。こちらは、28 ページにも記載させていただいたとおり、30 ページの一覧の新たな取り組みの中で、最も関連のあるものに再掲示しているということです。

○山口委員長

30 ページの表の方針 1 から 4 を覆うように伸びている水色の枠で、プロジェクトが横断していることを表しているのですね。また、一覧表の中ではプロジェクトの B、C、A の順に記載されていますので、アルファベット順になるよう、プロジェクトの説明と A、B、C の表記を整理し直すというのはいかがですか。

○事務局

プロジェクトの A は計画の目玉のようなものですので、順番を変えずに載せたいと考えています。

○藤枝委員

10 ページの表について、教育機関に高等学校も含まれていますので、「生徒」という文言を追加し「生徒・学生」とするのはどうでしょうか。

また、31 ページからの方針に対する指標について、数値が定められていますが、この数値が妥当であるのかどうか分かりにくいと感じました。例えば、モデル都市のようなものから比較したうえで数値を算定する等し、根拠を明確にしたほうがよいでしょう。前回、山口委員長からご意見があった

かと思いますが、進捗を指標するというのも良い方法だと思います。

さらに、本計画は、まち全体的が盛り上がっていくような雰囲気が感じられるものになってきたと思います。市民の方がまちを歩いていてそれを感じられるということが重要だと思いますので、広報の意味を兼ね、プロジェクトのロゴマークをつくることも検討されたらどうでしょう。ロゴマークが、イベントや取り組み等、市民の方の目によく触れるような使い方をすれば、本計画をより印象づけることができると思います。

○山口委員長

指標について、方針1、2はいいのですが、方針3、4については少し話が飛んでいるように感じました。満足度は、方針と直接的な関連性が薄いような感じがしますので、自己、関係者、委員からの判断の3点から達成度を見てもよいのではないのでしょうか。また、施策に関しては、先ほどもおっしゃっていたようにプロジェクトを全面に押し出していくということなのではないのでしょうか。

○事務局

はい。共通するプロジェクトとして強調したいと考えています。市長からも「スマイルというシンプルな文言である点が良い、シンプルでないと浸透しないだろう」と意見をいただいています。

○山口委員長

取り組みみや施策の全てがプロジェクトの一環であるという位置付けはわかりやすいですね。

○佐藤委員

10ページについて、前回からの流れを受け、事業所・企業について入れていただいたのは嬉しく思います。一方、30ページや別紙の表ですが、「推進」「振興」の使い分けについて、意味合いが違うのでどちらになるのか整理したほうが良いでしょう。

○事務局

失礼いたしました。30ページの「推進」が正しい表記です。

○高梨委員

目標値・指標の考え方や設定は難しいところですよ。数値だけ見るなら迫力にかけ、低い目標に見えてしまうのがもったいないなと感じました。また、この指標にした根拠について、やはり他自治体との比較がほしいところです。ページのレイアウトも余っているので、算定根拠や背景について説明を加えるのはいかがでしょう。

○事務局

必ずしも同じ指標を使っていない自治体も多く、比較のしようがない部分があり難しいところだと感じています。

○高梨委員

スポーツですと数値が高くなり指標がもう少し設定しやすいですが、文化というとその定義から難

しいところなのかなと思います。実際は、気が付かないだけで携わっている機会があるのだろうな、と思うと、この指標の目標値は低いのではないのでしょうか。

○事務局

現状値からどのくらい伸ばすのか、に着目していると、初期値が低いため指標についても連動して低いものになってしまうと感じています。

○高橋委員

施策1の「文化芸術ホールの整備のための検討を進めます」というところで、市民ホールの老朽化・対策について触れており、出来上がりが楽しみであります。一方で「文化芸術活動のための新しい練習の場や活動を増やす」という部分は、このために文化芸術以外の公共施設を活用することに重点を置いているように見えます。もっと地域で活動できる場の数自体を増やしていくということの方が大事なのではないのでしょうか。様々な団体が活動する場所として市民センターがありますが、音を出す専用の場や防音施設が少ないのかなと感じています。「芸術以外の公共施設を活用できるようにします」というのも重要だと思いますが、それ以外に今後、整備・活用ができるような幅のある施設ができると良いですね。

○山口委員長

高橋委員の、新規の事業「&スタート」というのは、バージョンアップ検討事業に既存の空間を含めてもあり得るという視点で考えますと、確かに重要な意見ですので検討していただきたいです。百田委員、いかがでしょうか。

○百田委員

全体の印象ですと、見やすいレイアウトになったと感じました。学校・教育の分野に立つと、38ページの小中学校の連合音楽会は、現在すべての学校の5年生を対象として行っている一方、音楽鑑賞教室については縮小傾向にあります。こういったことに対するサポートについても、バージョンアップ検討事業として頂けるとありがたいところだと感じました。

あわせて、41ページに「子どもたちの体験学習」がバージョンアップ事業としてありますが、実際の状況として相原小学校で力をいれている茶道体験や、伝統文化として郷土芸能も地域にあるものに関わっていききたいが、外部の方を招くのは予算の関係で難しいといった状況にあります。市からのバックアップがあれば、子どもたちの経験を養う機会をさらに増やしていけるとと思います。

次に、43ページに「市民・団体」と定められていますが、地域の市民センター祭りは一団体として学校も関わりがあります。参加団体数が不足しているため学校への参加依頼があることもあり、学校としては負担になっている側面もあります。そのため、本当に活動している方や団体が参加できるものに変えていくきっかけになるとよいのかなと思います。

また、44ページについて、桜美林大学とのサマースクールや、造形大学とのクラブ活動連携があったり、法政大学から音楽団体をお呼びしたりと協力することもある一方、発表・紹介する機会ないので、より増やしていければと思います。

○山口委員長

百田委員の最後のお話については、既存の活動として、小中学校と大学との交流があること整理して発信したいということですね。

○藤枝委員

44ページの施策2について、大学や企業とのコラボと言うのは、これまで行ってきた経緯はあるのかと思いますが、それが一過性のものであったり、企業と教員の日程が合わなかったりと実際に実行・実現できなかったものも多くあると思います。仕組みづくりの支援をするということならば、とりまとめていく場所や経済的な支援を行う等、施策の内容についてもう少し整理をしていただきたいと思います。

○長尾委員

仕組みといってもレベル感がまちまちだと思うので、人的・経済的な支援も可能になるような体制をつくっていくことが理想だと私も考えます。それにあたって、市と大学・企業がお互いにどのような活動をしているかを知り、整理することで具体的な取り組みが見えてくるのではないのでしょうか。

また、31ページ以降、方針1のページについては、さらに情報を載せる必要があるかと思います。他に数値的な評価をするツールはあるのでしょうか。ないのであれば、それぞれについて質的な評価や進捗見ながら振り返るというような、複数の指標を用いることも検討すると良いでしょう。方針について、特定の設問で把握できるものでしか成果・課題を把握できないのはもったいないような気がしました。

○事務局

今回取り上げた市民意識調査のほかに他に測ることができる指標につきまして、2023年度に文化振興課で文化芸術に関する意識調査を行っており、それを基にすることは可能だとは思いますが、調査を行えたとしても5年に一回など、期間をあけたものになってしまうと思います。それ以外ですと、イベントごとの満足度調査や実際に活動・鑑賞している方へのアンケート調査でみるしかないのかな、と思います。

○長尾委員

29ページの「活動・鑑賞者の評価」というのは、それについての説明なのですね。

○山口委員長

では、大山委員、中学校からみたご意見はいかがでしょうか。

○大山委員

38ページにある小・中学校連合音楽会についてですが、これを中心になって行っているのは先生方であり、ほとんどの中学校で吹奏楽部があり、この時期にこの規模で実施し続けていく必要があるのかという点で賛否両論あるものです。また、連合体育大会は協力してくださる方が現在少なくなり、運営が難しいものになっています。このように、拡充事業にしても、先生にこれ以上の負担をかけるものはできないのかなと思っているところですので、ただ「やってみましょう」というもので

はなく具体的な予算や支援についての方向性が記載されているといいでしょう。

○山口委員長

そうですね。小・中学校にしても大学にしても同じことが言えますし、特に小・中学校の先生は多忙かと思うので、既存事業に任せるだけでなく個別のサポートをすることは非常に重要だと思います。

○宗田委員

高梨委員がおっしゃっていた目標値についてですが2024年度の初期設定値が低いのは仕方ないと考えていました。初期値が低いからこそ、この計画の重要性が表れているのです。しかし、2031年度、2035年度の数値については、達成率ではないので本計画の関係者のやる気・モチベーションをあげるという意味で、もう少し高く目標を設定しても良いと思います。それを含め、45ページについても、文化芸術を推進していることを市民の方に「見える化」するためには推進委員会はもちろん、予算をとったり、指標の達成率をあげたりと数値的なものが必要なのでしょう。

また、33ページ以降の外郭団体との紹介というのはどのような形で行う想定でしょうか。

○事務局

イメージとしては、写真を入れコラムチックな文章で紹介したいと考えています。

○宗田委員

それで言いますと、34ページのアーティストバンクについては昨年6月からスタートし、この1年間で180件を超えました。しかし、このページに登録件数を書いてもあまり意味がないので、マッチングした件数を見せた方がより良いのかなと感じます。他のものについても同様に、読み手がより実感できる見せ方ができたらと思います。

○山口委員長

11、28ページの「はじめの一步」「子ども」等新たに加わった言葉の重複について、以前から修正されていると思いましたが、まだ若干重複箇所が残っているように見えます。つまり方針の言葉は縦軸、横軸で別の視点が加わっており、その中でつながりがあるものを整理した方がいいかもしれません。

○藤枝委員

それでしたら、28ページの5つのキーワードの位置づけは、どのように捉えたら良いか確認させてください。

○事務局

目指す姿を生み出すために、6ページ目の背景や、意識調査の結果、市の現状、みなさんの思いから要素としてピックアップしたものが、5つのキーワードでございます。目指す姿だけで完結するのではなく、施策としての各取り組みでも大事にしていきたいという思いがあり、新しく始める事業についてもこの要素を踏まえた事業を立てられるように、と考えています。

○長尾委員

私からも確認の質問をさせてください。5つのキーワードと方針が、似ている言葉であることに意味があるのだと捉えたのですが、いかがでしょうか。

○事務局

その背景や現状、意識調査も方針を生み出す大本の要素ですので、5つのキーワードや要素と似ている言葉になってしまうものだと思います。

○山口委員長

では、重ねていることで、強調している側面もあるということですね。

○長尾委員

そのうえで、ですが、山口委員長の縦軸、横軸の視点を持つべきというご意見は、9ページの表から来ているのでしょうか。「本計画における文化芸術の範囲」と「本計画で踏まえる関連分野（要素）」を縦横の軸にして、考えていくことも可能かもしれません。

○山口委員長

そうですね。特にこちらの表の言葉については、他のページに出てこないのです。そのため、ある種重点というか、重視する視点であるようなことを理解できているのなら良いのでしょうか。とはいえ、11ページの「はじめの一步」が始めやすい環境だけなのか、また、「つながる」は未来への継承だけでなく人と人をつなげるということもあり得ます。こういった解釈について、一言で言い表せないものだと思いますので、表現の仕方についてよりよい表現を探してみるのもいいかもしれません。

○藤枝委員

では、このキーワードや要素を意識して使用していくという理解でよろしいでしょうか。

○事務局

はい。例えば、方針1「きっかけをつくる」ですと、機会の提供のようなカテゴリであります、「子ども」「チャレンジできる」等、他の要素も意識して取り組んでいこうと考えています。そのため重複した表現になっている部分もありますが、言葉の要素の表現方法につきましては改めて考えさせていただきます。

○宗田委員

方針の1から4のタイトルはこちらで確定なのでしょうか。というのも、「未来につなぐ」以外の語尾は「つくる」ですので、4つの方針の語尾をすべて「つくる」に統一するのはいかがでしょうか。

○事務局

検討させていただきます。

○高橋委員

10ページに企業や事業者について書かれていますが、45ページの町田市文化芸術のまちづくり推進委員会には含まれていませんね。では、企業や事業者は立ち位置といいますか、どのような認識をしているのでしょうか。

○事務局

個別の企業や事業については詳細を考えることはむずかしいと思っているところですので、経済団体の方に企業・事業者を代表していただく形で、計画の推進にも関わっていただこうと考えています。

○高橋委員

もう一点、これから工芸美術館が建設されるかと思いますが、そちらは文化芸術に入らないのでしょうか。

○事務局（山田課長）

もちろん文化芸術に含まれます。工芸美術館につきましては、本計画ですと36ページにある「芹ヶ谷公園“芸術の杜”「美術エリア」の整備」という部分に含まれています。

○山口委員長

それでは皆様、時間となりましたので本日の懇談会はここまでといたします。

○事務局

計画の策定スケジュールについて最後にお伝えしたいと思います。本日第8回の懇談会を終えまして、委員の皆様にご意見を踏まえまして、計画の素案を確定したいと思います。そして、行政報告として9月議会に報告させていただき、9月下旬から10月にかけて市民意見募集を行います。11月の下旬になるかと思いますが、第9回懇親会を開催し、今年中に計画を完成させていただきたいと思っております。

また、事務連絡になりますが、ホームページ公開のため、7月の下旬頃に本日の議事録をお送りしますのでご確認をお願いいたします。なお、次回の懇談会につきましては改めてメール等にて、日程を伺いますのでよろしくお願いいたします。

○事務局（山田課長）

それでは、以上を持ちまして、第8回町田市文化芸術のまちづくり策定懇談会を終了したいと思います。本日はありがとうございました。

以上

